



今月の interviewer
都留高等学校
左 阿竹花菜女さん
右 木下夢実さん

大月から世界へ

“夢をかなえる大月仕事人”の最終回として、地域活力を自分達で作り出す大切さと、地域に残る歴史と文化を次世代に伝える星野喜忠さんに、都留高等学校生がインタビューしました。



ほしの よしただた
星野 喜忠さん

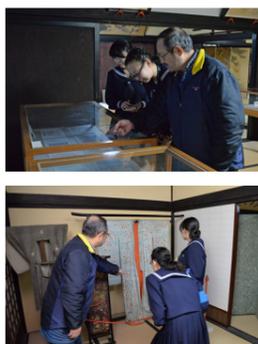
～プロフィール～
国際ロータリー第2620地区2018-19年度ガバナー、国指定重要文化財「星野家住宅」当主、富士納豆製造所代表 大月町花咲在住
大月のお気に入りの場所：星野家住宅

「お仕事について教えてください。」

3つの顔があり、ロータリークラブのガバナー（静岡・山梨地区の最高責任者）、旧花咲宿本陣の星野家住宅当主、富士納豆製造所代表を務めています。富士納豆は、昭和10年頃、祖父が始めました。今は大月を中心に郡内地域で販売していて、一部東京でも販売しています。レトロなデザインのパッケージとして、割と良い評価をいただいています。

また、「おおつき納豆」という大月産の大豆を使用した納豆も作っています。この納豆は市内の有志20数名の方が生産する大豆を使って製造するもので、小さい納豆屋さんだからこそできる、この地域ならではのものです。このおおつき納豆を広めたいです。おおつき納豆によって「稼ぐこと」がこの地域の力となって、大月が盛り上がるものと考えています。

「夢や目標を教えてください。」
納豆を1つの柱としていきたいです。おおつき納豆を目玉に、大豆を作ってくれる人を増やして、太い幹にしたいと思っています。また、古文書を保管できるような場所を確保したいです。星野家に伝わる約3万点の古文書「星野家文書」があります。他にも、市内には多くの歴史的財産が眠ったまま散在していて、貴重な資料が生かされていないと思います。非常にもったいない。そういった資料を掘り起こし、この町の財産として保存する場所を確保し、生かしていきたいです。



星野家に伝わる品々を見せていただく

「大月出身」を誇りに

「若い時にやった方が良いと思うことはありますか。」

会社員として働く時に、海外に駐在していました。その経験から思うのは、「より大きな世界を見てほしい」ということ。知らない世界で、誰も自分のことを知らない環境の中で鍛えられて、さまざまな人と出会い、いろいろな考え方を学んでほしいです。

「私たち若者に熱いメッセージを。」

いろいろな人と知り合い、経験して、大きな世界へ羽ばたいてください。住まなくても「心は大月」で、大月生まれであること、大月育ちであること、大月の学校の出身であることなど、この「大月出身」を誇りに、世界中で活躍してもらいたいのです。そして、世界に出て大切になるのは、日本を語れること。同時に、ふるさとがどういう町であるかを語れることです。例えば、名勝猿橋だったり、星野家住宅について話すことが必要になってくるでしょう。

「ふるさと教育の大切さは。」

大月では、人口減少や働く場所などの問題があるかもしれせん。しかし、今大月にある仕事を輝かせれば、必然的に良い方向へ向かっていくでしょう。そのためには、ふるさと、歴史、状況などを認識して、「大月なんて」ではなく、「大月だから」を勉強する必要があると思います。

みんな「大月代表」

星野家住宅の中に入ると、歴史的価値のある、教科書でしか見たことのないものばかり展示されていて驚きました。それら一つ一つを説明している星野さんは生き生きとしていて、活動に対する情熱を感じました。

星野さんのように自分の住んでいる町のことを熱く語れる人は少ないと思います。違う世界に出たときに、「大月代表」「山梨代表」として地元のことを自信を持って話せる人を増やすため、大月の魅力を紹介するのが私たち、報道の役目だと感じました。



歴史的価値の高さにびっくり！

大月みらい協議会が先導的に実施する全5回の企画でしたが、今回が最終回となります。若者取材班がまとめた記事はいかがでしたでしょうか。

今後、大月みらい協議会では「ふるさと教育」へのこの企画が果たした成果に関する評価・検証を行い、何らかの形で市民の皆さんにご報告することを検討しています。

今回の連載はここで終了となりますが、すべての市民の皆さんが仕事人です。次回はあなたの「夢」を語っていただくかもしれません。次にお会いするまで楽しみにお待ちください。